

保育教諭とボクサー「二刀流」京原さん、王座戦勝利

保育教諭でボクシングの日本スーパーミドル級王者となった京原和輝選手(29)が24日、試合後初めて職場の上峰町の「ひよ子」子ども園かみみねに凱旋した。園児たちには「かずき先生、おめでとう」と祝福され、満面の笑みを浮かべた。「保育教諭とボクサーのどちらが欠けても自分は完成しない」と、今後も「二刀流」を続ける。

同級日本ランキング2位の京原選手は22日、



園児から日本王者を祝福する紙の首飾りをもらい、抱き合って喜ぶひよ子京原和輝さん(上峰町のひよ子)も園かみみね

チャンピオン、こども園に凱旋 上峰町

東京で1位の草村龍弥選手との王座決定戦10回戦に挑み、6回KOで下して日本王者のベルトをつかみ取った。5回終了時はリーチが長く距離を取る草村選手に0-3でリードされたが、「6回から相手との距離が短い自分の戦い方ができ、必殺技の右ストレートが頭にヒットした」と振り返る。

試合会場には家族や池松英治園長ら園関係者、以前の勤務先の卒園生、博多協栄ジムの関係者ら約70人が応援に駆けつけた。京原選手は「和輝」コールも聞こえ、背中を押してもらった」と感謝する。

園では京原選手に受け持ちの2歳児たちが駆け寄り、手作りの紙の首飾りを贈った。報告会では日本一を祝う園児たちの寄せ書きもプレゼントされ、日本王者のベルトが届き次第、披露することを約束した。

「子どもたちに頑張る姿やスポーツの楽しさを伝えたい」と、フルタイムで保育教諭として働き、車で片道1時間10分かけて福岡市のジムに通う京原選手。「まずは半年以内に行われる防衛戦に勝ち、アジアや東洋太平洋連盟のベルトを目指したい」とさらなる高みに挑む。

(古賀真理子)

